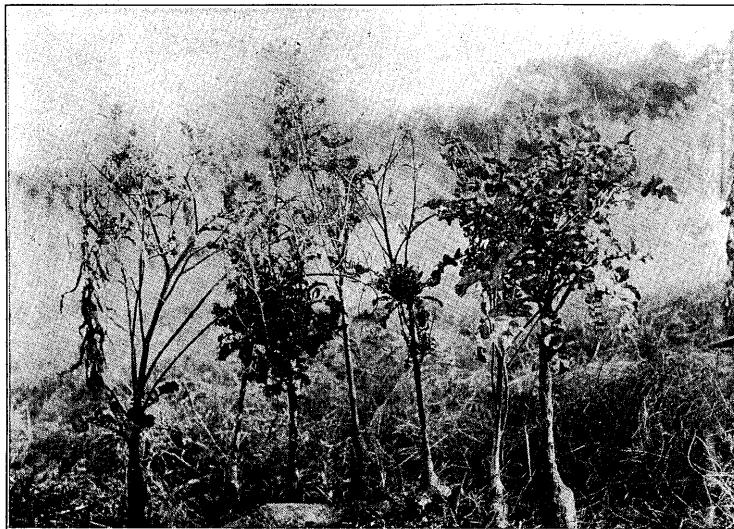


大根ノ莖ハドンナモノカ



晩秋莖上ニ芽ヲ出シ葉ヲ發生セル

(Raphanus sativus L. var. macropodus MAKINO.)

var. *ascendens* ルベキヲ *P. subhirtella* ルシテ以下ヲ略シテ置イタモノ
カ此點ハ Arnold 樹木園ノ同氏ニ聽イテ見ナケレバナラヌ

◎大根ノ莖ハドンナモノカ

久 内 清 孝

普通大根ノ莖ト云フ處ハ根カラ葉ノ叢生シテ居ル數分ノ短
キ部分ト思フ人ガアル然シコレハ決シテ誤ツタ考デハナイ
ガ春夏花期ニ際セバ此ノ莖ノ部分ガ伸長シ次デ花莖ガ現ハ
レルト其部分ガ更ニ顯著ニナリ其マヽ夏ヲ過ギ秋ニナルト
此部分ハ一層著明トナリ更ニ此部カラ上ニ掲ゲタ寫真ノ通
リニ偶マニ葉ヲ展開スルコトモアル此様ニナルト莖トシテ
甚ダ著ルシクナル、此寫真ハ大正十四年十一月ニ武州大宮
八幡附近デ藥學士藤田直市氏ガ撮影シタモノダ、だいこん
ノ逸出品ナルはまだいこんニモ時ニ同様ナ事ガ顯ハレル、
又他ノ十字科植物デモ同ジク花後莖上ニ芽ヲ出シ葉ヲ展ゲ
ルモノガアルやまがらし、つるたがらシガソレデアル又お
らんだがらシモソンナコトヲスル、又はぼたんハ普通ノ時
デモ莖ガ著シク伸長シ其頂ニ牡丹花ノヤウニ葉ヲ集メ展ゲ